



平成13年7月

第17号

東久留米市教育委員会

東久留米の学校

東久留米市には、現在、市立学校だけでも小学校が16校、中学校が7校あります。昭和30年代から40年代にかけて大型団地が造られ、人口が急増して次々に学校が建てられるようになりますが、34年以前は小学校1校と3つの分校、中学校が1校でした。

久留米に初めて尋常小学校が開設されたのは、学制が発布された12年後の明治17(1884)年のことです。実際には、その前身とも考えられる学校（三併学舎、黒湧学舎）が学制発布直後に設置されていますが、その位置や記録など、資料はほとんど残されていません。尋常小学校の開設以降も学校の充分な記録はないのですが、学校施設や児童・生徒を写した珍しい写真が残されており、市立学校だけでなく多様な学校が開設された様子を知ることができます。今号では、この写真を見ながら久留米の学校の歴史をたどることにしましょう。

村立学校

久留米で最初の尋常小学校は、前沢村69番地（現在の市清掃課の場所）に建てられた成蹊学校です。翌明治18年には、南沢村673番地（多聞寺敷地内）に共立学校（写真2）が開校します。成蹊学校は久留米西側の前沢・下里・柳窪など、共立学校は東側の小山・南沢などを通学区域としていました。明治22年に8つの村が合併して久留米村が成立すると、村役場が成蹊学校内に併設されます（写真3）。

明治36年には、成蹊・共立の両校に高等科が設置されますが、校舎は前沢の宿屋「江戸屋」を買い受けて修理し、仮校舎としました（写真1）。当時は国の援助も少なく、学校の設置については村の負担が大きかったので、校舎は社寺や民家等の一隅でも差し支えないという状況でした。右の写真は、手前が運動場で現在の第一小学校の敷地の一部に当たり、小金井街道を挟んだ奥が校舎となっています。

当時の学校は尋常科が4学年で、3年までは男女一緒のクラス、高等科は2学年で男女別でした。学科は、書き方・読み方・図画・算



1 久留米尋常・高等小学校

(大正5年撮影)

東久留米の学校史

明治17年 成蹊学校開校（前沢）
明治18年 共立学校開校（南沢）
明治36年 成蹊学校、共立学校に高等科を設置
仮校舎を開設（前沢357番地）
明治39年 久留米村尋常・高等小学校開校（成蹊・共立学校合併）
成蹊学校は西分教場、共立学校は東分教場
明治43年 実業補習教育の学校設立（「江戸屋」2階）
大正14年 実業補習学校を久留米農業公民学校と改称
昭和3年 小学校新築・移転、西分校・東分校新築
昭和4年 清牧学園女学校・女子工芸学校設立（昭和13年まで）
昭和7年 拓殖大学総合運動場開設（昭和15年まで）
昭和9年 自由学園開校（目白より移転）
昭和10年 久留米農業公民学校を久留米青年学校と改称
昭和11年 東京府立久留米学園開設（現久留米養護学校）
豊島師範学校成美荘開設
昭和12年 久留米青年学校を東京府に移管し、豊島師範学校に併設。
東京府立久留米青年学校と改称
昭和16年 小学校を久留米国民学校と改称
早稲田大学久留米練成道場開設
昭和22年 久留米村立久留米小学校と改称、久留米中学校開校
昭和23年 旧校舎より久留米小学校にすべて移転
小山児童学園開設
昭和25年 東分校移転（現第三小学校の場所）
昭和26年 クリスチャンアカデミー開設
昭和33年 落合分校開設（現第二小学校の場所）
昭和34年 都立久留米養護学校開設
昭和35年 久留米小学校を久留米町立第一小学校と改称
第二小学校開校
昭和37年 第三小学校開校
昭和38年 第四小学校・東中学校開校
昭和39年 第五小学校開校
昭和40年 都立久留米高等学校開校
昭和41年 第六小学校開校
学芸大学附属養護学校が竹早より移転開校
昭和43年 第七小学校・西中学校開校
西分校廃止、久留米中学校移転（現在地）
昭和45年 第九小学校開校
昭和46年 第八小学校開校
昭和47年 第十小学校・南中学校開校
昭和49年 小山小学校・大門中学校開校
都立久留米西高等学校開校
昭和50年 神宝小学校・南町小学校・滝山小学校開校
昭和51年 本村小学校開校
昭和53年 下里小学校・下里中学校開校
昭和59年 中央中学校開校

術・唱歌・体操・修身などがあり、高学年で理科や歴史・地理を習いました。様々な理由により学校へ通えない子どもも多かったようですが、授業料として高等科25銭、尋常科10銭が必要でした。

明治37年から高等科が4年に延長され、40年には尋常科が6年制の義務教育に改められます。

成蹊学校と共立学校が合併し、久留米尋常・高等小学校が発足したのは明治39年です。成蹊・共立学校の旧校舎は、それぞれ西分教場、東分教場として尋常科3学年以下の児童が使用しました。

明治43年には実業補習教育を行う学校が設置され、写真1の校舎の2階部分が使われました。

昭和に入ると児童数も増え、小学校本校の新校舎が現在の第一小学校の位置に、東分校は現在の南沢交番付近に新築され、西分校も新築されます（写真4）。その後、東分校は現在の第三小学校の位置に移転し、西分校は昭和43年に廃校となりました。

久留米に初めて新制中学が開校したのは昭和22年です。この時校舎として使用したのは、昭和10年代に中央町1丁目に建てられた青年学校（実業補習学校から農業公民学校を経て青年学校と改称）の建物でした。

昭和20年代以降の村（町・市）立学

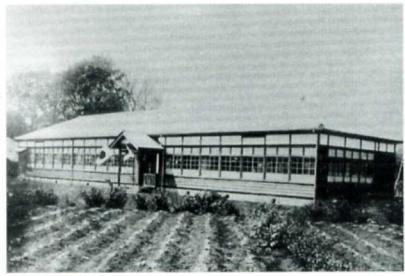


2 共立学校（東分教場）

（大正5年撮影）



3 村役場・成蹊学校（大正 8 年撮影）



4 西分校新築（昭和 3 年撮影）

校については、前頁の学校史に譲るとして、次はその他の特色ある学校について見ていきましょう。

私立学校など

浄牧学園女学校・工芸学校

浄牧院（大門町 1 丁目）の境内に高等女学校が設立されたのは、昭和 4 年です。女子に実際的教育を行うことを目的とし、修身・国語・数学・地理歴史・図画・農芸の他、家事・裁縫・手芸などの学科がありました。定員は 70 人で、近在だけでなく村以外から通学する人もあったといわれています。学校で作る農場生産物や手芸品の売却代も経営歳入に入れていましたが、1か月 3 円の授業料が必要でした。



浄牧学園女学校（昭和 4 年撮影）

写真の建物は昭和 53 年まで残っていましたが、火災により焼失てしまいました。

詳しい記録はありませんが、同時期の同じ境内に、今でいう短大に相当する女子工芸学校があったことが知られています。全寮制で 1 学年が 20 人ほどであり、高等女学校の卒業生を対象に全国に門戸を開いていました。学費は無料で自給自足を原則とし、近在の住民のワイシャツ仕立てからフランス刺繡・和裁・農作業までこなしました。学科は、心理学・国文学・絵画などで、夜は仏典の講義を受けるという日課が課せられていたようです。

自由学園

市内でもひときわ縁の豊かな自由学園は、その敷地（約 3 万坪）内に立野川を有し、ほぼ全域が遺跡になっています。旧石器時代から縄文時代中期にわたるその遺跡は武藏野でも貴重な遺跡のひとつで、昭和 11 年から現在まで発掘調査が行われています。



自由学園女子部（昭和 9 年撮影）

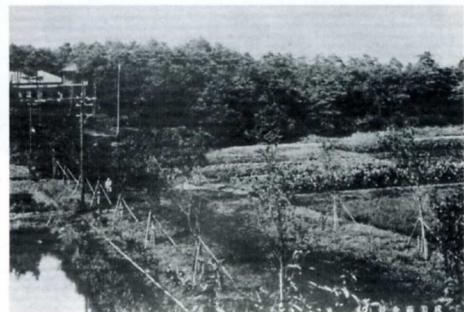
自由学園が目白雑司ヶ谷から学園町（旧南沢村）に移ってきたのは昭和 9 年ですが、大正 14 年から土地の購入を始め、徐々に諸施設を久留米に移すようになります。創立時は尋常小学校卒業者を収容する本科（5 年制）と 5 年制高等女学校卒業の学力のある者が入学する高等科（2 年制）を備えた各種学校令による 7 年制の女子教育機関として発足しましたが、昭和 10 年には男子部が加えられました。

女子部食堂は、平成 9 年に東京都景観条例による歴史的建造物に指定されています。

南沢に新しい文化を築きあげることにも力を注ぎ、昭和 4 年には南沢農村セツルメントを開き、その事業として後に設けられた診療所は医療機関に不自由していたこの地に大きく貢献しました。

豊島師範学校成美荘

豊島師範学校（現在の東京学芸大学の前身の一つ）の修練生活の訓練場として、昭和11年、冰川台1丁目に開設され、附属小学校や本校の生徒が2泊3日の日程で使用しました。1万坪に余る広さの農場には水田もあり、田植えや収穫など実地の訓練が行われた様子が写真に残されています。道路の建設や雑木林の開墾、植樹など、周辺の環境整備は大変な事業でしたが、当時このような農民道場風の学校が盛んだったこともあり、全国各地から見学者が訪れたといいます。



(昭和11年撮影)

早稲田大学久留米練成道場



昭和16年、現在の滝山小学校付近に、戦時下の学生の心身鍛錬の場として開設されました。久留米だけでなく東伏見・戸塚・戸山などにも練成部が配置され、久留米道場はその中心的な役割を担っていました。

道場では練成部の教職員と学生が日夜寝食を共にし、5日間の日程で農作業や講義が行われましたが、戦争の終結と同時に姿を消し、国旗掲揚の台座だけが昭和46年まで残っていました。



(昭和16～17年撮影)

上記施設のほか、南沢字中丸前（現中央町1丁目）には、昭和7年から15年まで、1万6千坪の拓殖大学総合運動場がありました。

また、昭和11年には、尋常小学校3学年以上の身体虚弱な児童が寄宿生活を行なながら教科を習得する府立久留米学園（現都立久留米養護学校）が、昭和23年には、戦災孤児のための小山児童学園が開設されました。

このように、昭和初期から東久留米には様々な教育施設が創られてきました。それは、この地が武蔵野の雑木林の茂る静かな場所だったことや、武蔵野鉄道（現西武池袋線）が敷かれ、比較的交通の便がよかつたことも一因しているのではないでしょうか。

（今号で掲載した写真の一部は、浄牧院、自由学園、
豊島修練会、早稲田大学から提供を受けたものです。）



府立久留米学園 (昭和41年撮影)

【編集・発行】

東久留米市教育委員会社会教育課

〒203-8555 東京都東久留米市本町3-3-1

電話 0424(70)7777

内線3213～4